

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2021.9.6-12

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

15:1 しばらくたって、小麦の刈り入れの時に、サムソンは一匹の子やぎを持って自分の妻をたずね、「私の妻の部屋に入りたい」と言ったが、彼女の父は、入らせなかった。15:2 彼女の父は言った。「私は、あなたがほんとうにあの娘をきらったものと思つて、あれをあなたの客のひとりにやりました。あれの妹のほうが、あれよりもきれいではありませんか。どうぞ、あれの代わりに妹をあなたのものとしてください。」15:3 すると、サムソンは彼らに言った。「今度、私がペリシテ人に害を加えても、私には何の罪もない。」15:4 それからサムソンは出て行って、ジャッカルを三百匹捕らえ、たいまつを取り、尾と尾をつなぎ合わせて、二つの尾の間にそれぞれ一つのたいまつを取りつけ、15:5 そのたいまつに火をつけ、そのジャッカルをペリシテ人の麦畑の中に放して、たばねて積んである麦から、立穂、オリーブ畑に至るまでを燃やした。15:6 それで、ペリシテ人は言った。「だれがこういうことをしたのか。」また言った。「あのティムナ人の婿サムソンだ。あれが、彼の妻を取り上げて客のひとりにやったからだ。」それで、ペリシテ人は上って来て、彼女とその父を火で焼いた。15:7 すると、サムソンは彼らに言った。「あなたがたがこういうことをするのなら、私は必ずあなたがたに復讐する。そのあとで、私は手を引こう。」15:8 そうして、サムソンは彼らを取りひしいて、激しく打った。それから、サムソンは下って

行って、エタムの岩の裂け目に住んだ。

15:9 ペリシテ人が上って行って、ユダに対して陣を敷き、レヒを攻めたとき、15:10 ユダの人々は言った。「なぜ、あなたがたは、私たちを攻めに上って来たのか。」彼らは言った。「われわれはサムソンを縛って、彼がわれわれにしたように、彼にもしてやるために上って来たのだ。」15:11 そこで、ユダの人々三千人がエタムの岩の裂け目下って行って、サムソンに言った。「あなたはペリシテ人が私たちの支配者であることを知らないのか。あなたはどうしてこんなことをしてくれたのか。」すると、サムソンは彼らに言った。「彼らが私にしたとおり、私は彼らにしたのだ。」15:12 彼らはサムソンに言った。「私たちはあなたを縛って、ペリシテ人の手に渡すために下って来たのだ。」サムソンは彼らに言った。「あなたがたは私に撃ちかからないと誓いなさい。」15:13 すると、彼らはサムソンに言った。「決してしない。ただあなたをしっかりと縛って、彼らの手に渡すだけだ。私たちは決してあなたを殺さない。」こうして、彼らは二本の新しい綱で彼を縛り、その岩から彼を引き上げた。

サムソンの妻はその父の判断で別の男と結婚生活に入り、姦淫の罪を犯しました。それはサムソンにも非があるのですが、彼は怒りまたは自暴自棄になってペリシテ人に大損害を与えます。その結果彼の妻は同胞に殺されてしまいました。サムソンは神様から強さが与えられていましたが、その信仰と人格がともなわないために多くの

無軌道な行いをし、その害は常人の何倍にもなりました。このように神様から賜物として能力を与えられている者は、それを正しく用いるためにきよめられ、人格が養われなければなりません。

サムソンは自分のしていることに気付いていなかったのですが、彼は自分の願いを最優先にし、能力ゆえに傲慢であり、自分が原因で妻を失ったことということがわかりませんでした。「自分にはできる」と思えるものを持っている者はよくよく気をつけなければなりません。

ユダの人々はペリシテ人を恐れて、サムソンを縛り彼を差し出すつもりでした。ユダの人々もまた、信仰ではなく異教人への服従によって事なきを得ようとしてました。神がないがしろにされているのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたその部分の主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



7日 火曜

士師



15:14 サムソンがレヒに来たとき、ペリシテ人は大声をあげて彼に近づいた。すると、主の霊が激しく彼の上を下り、彼の腕にかかっていた綱は火のついた亜麻糸のようになって、そのなわめが手から解け落ちた。

15:15 サムソンは、生新しいろばのあご骨を見つけ、手を差し伸べて、それを取り、それで千人を打ち殺した。

15:16 そして、サムソンは言った。「ろばのあごの骨で、山と積み上げた。ろばのあごの骨で、千人を打ち殺した。」

15:17 こう言い終わったとき、彼はそのあご骨を投げ捨てた。彼はその場所を、ラマテ・レヒと名づけた。

15:18 そのとき、彼はひどく渇きを覚え、主に呼び求めて言った。「あなたは、しもべの手で、この大きな救いを与えられました。しかし、今、私はのどが渇いて死にそうで、無割礼の者どもの手に落ちようとしています。」

15:19 すると、神はレヒにあるくぼんだ所を裂かれ、そこから水が出た。サムソンは水を飲んで元気を回復して生き返った。それゆえその名は、エン・ハコレと呼ばれた。それは今日もレヒにある。

15:20 こうして、サムソンはペリシテ人の時代に二十年間、イスラエルをさばいた。

主の霊（感情に現れる主のみわざ）が彼に下り、彼はロバの骨を武器にして、ペリシテ人千人を殺しました。神はサムソンに力を与えて、ペリシテ人を打ちました。しかしサムソンは自分が神に勝利を得させたということを言っています。ここに自己中心の信仰の姿を見ます。「自分がやったのに…」と主

張するのです。

またサムソンは神に渇きの癒しを求めています。が、それも「私はやったのだから」と功績の見返りで得ようとしています。現代のクリスチャンにもそういう面が見られるときがあります。「○○をした」「○○をがまんした」「○○時間も祈った」などと、自分のわざのゆえに「神からもらえるはずだ」と勘違いするのですが、実際はサムソンのように神に迷惑ばかりかけているのです。主からいただけるなら、それはただ憐れみと恵によるのです。そのような求め方をしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



8日 水曜

士師



16:1 サムソンは、ガザへ行ったとき、そこでひとりの遊女を見つけ、彼女のところにいった。

16:2 このとき、「サムソンがここにやって来た」と、ガザの人々に告げる者があったので、彼らはサムソンを取り囲み、町の門で一晩中、彼を待ち伏せた。そして、「明け方まで待ち、彼を殺そう」と言いながら、一晩中、鳴りをひそめていた。

16:3 しかしサムソンは真夜中まで寝て、真夜中に起き上がり町の門のとびらと、二本の門柱をつかんで、かんぬきごと引き抜き、それを肩にかついで、ヘbronに面する山の頂に運んで行った。

16:4 その後、サムソンはソレクの谷にいるひとりの女を愛した。彼女の名はデリラとあった。

16:5 すると、ペリシテ人の領主たちが彼女のところに来て、彼女に言った。「サムソンをくどいて、彼の強い力がどこにあるのか、またどうしたら私たちが彼に勝ち、彼を縛り上げて苦しめることができるかを見つけなさい。私たちはひとりひとり、あなたに銀千百枚をあげよう。」

16:6 そこで、デリラはサムソンに言った。「あなたの強い力はどこにあるのですか。どうすればあなたを縛って苦しめることができるのでしょうか。どうか私に教えてください。」

16:7 サムソンは彼女に言った。「もし彼らが、まだ干されていない七本の新しい弓の弦で私を縛るなら、私は弱くなり、並みの人のようになろう。」

16:8 そこで、ペリシテ人の領主たちは、干されていない七本の新しい弓の弦を彼女のところに持って来たので、彼女はそれでサムソンを縛り上げた。

16:9 彼女は、奥の部屋に待ち伏せしている者をおいていた。そこで彼女は、「サムソン。ペリシテ人があなたを襲ってきます」と言った。しかし、サムソンはちょうど麻くずの糸が火に触れて切れるように、弓の弦を断ち切った。こうして、彼の力のもとには知られなかった。

16:10 デリラはサムソンに言った。「まあ、あなたは私をだまして、うそをつきました。さあ、今度は、どうしたらあなたを縛れるか、教えてください。」

16:11 すると、サムソンは彼女に言った。「もし、彼らが仕事に使ったことのない新しい綱で、私をしっかり縛るなら、私は弱くなり、並みの人のようになろう。」

16:12 そこで、デリラは新しい綱を取って、それで彼を縛り、「サムソン。ペリシテ人があなたを襲ってきます」と言った。奥の部屋には待ち伏せしている者がいた。しかし、サムソンはその綱を糸のように腕から切り落としたりした。

16:13 デリラはまた、サムソンに言った。「今まで、あなたは私をだまして、うそをつきました。どうしたらあなたを縛れるか、私に教えてください。」サムソンは彼女に言った。「もしあなたが機の縦糸といっしょに私の神の毛七ふさを織り込み、機のおさで突き刺しておけば、私は弱くなり、並みの人のようになろう。」

16:14 彼が深く眠っているとき、デリラは彼の髪の毛七ふさを取って、機の縦糸といっ

しょに織り込み、それを機のおさで突き刺し、彼に言った。「サムソン。ペリシテ人があなたを襲ってきます。」すると、サムソンは眠りからさめて、機のおさと機の縦糸を引き抜いた。

「主に用いられた」「用いられている」との自負があっても、またはそれを感謝していたとしても、私たちはあくまでも道具のようなものです。主が効果的に使ってくださいかどうかにかかっているのです。

サムソンのように未熟な人格・信仰でも、破壊のためには能力を発揮し、それを主の全能によって用いられる場合もあるのです。主が良い結果に導かれたといっても、それに関わった自分の信仰を自画自賛するのは考えものです。

サムソンはデリラとう女性を慕うあまり失敗してしまいました。すべての欲求は神様によって祝福され、きよめられることによってのみ幸いな動機となってゆくのです。心の動機を吟味しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



9日 木曜

士師



16:15 そこで、彼女はサムソンに言った。「あなたの心は私を離れているのに、どうして、あなたは『おまえを愛する』と言えるのでしょうか。あなたはこれで三回も私をだまして、あなたの強い力がどこにあるのかを教えてくださいませんかでした。」

16:16 こうして、毎日彼女が同じことを言って、しきりにせがみ、責め立てたので、彼は死ぬほどつらかった。

16:17 それで、ついにサムソンは、自分の心をみな彼女に明かして言った。「私の頭には、かみそりが当てられたことがない。私は母の胎内にいるときから、神へのナヅル人だからだ。もし私の髪の毛がそり落とされたら、私の力が私から去り、私は弱くなり、普通の人のようになろう。」

16:18 デリラは、サムソンが自分の心をみな明かしたことがわかったので、人をやって、ペリシテ人の領主たちを呼んで言った。「今度は上って来てください。サムソンは彼の心をみな私に明かしました。」ペリシテ人の領主たちは、彼女のところに上って来た。そのとき、彼らはその手に銀を持って上って来た。

16:19 彼女は自分のひざの上でサムソンを眠らせ、ひとりの人を呼んで、彼の髪の毛ふさをそり落とさせ、彼を苦しめ始めた。彼の力は彼を去っていた。

16:20 彼女が、「サムソン。ペリシテ人があなたを襲ってきます」と言ったとき、サムソンは眠りからさめて、「今度も前のように出て行って、からだをひとゆすりしてやろう」と言った。彼は主が自分から去られたことを知らなかった。

16:21 そこで、ペリシテ人は彼をつかまえて、その目をえぐり出し、彼をガザに引き立てて行って、青銅の足かせをかけて、彼をつないだ。こうしてサムソンは牢の中で臼をひいていた。

16:22 しかし、サムソンの頭の毛はそり落とされてから、また伸び始めた。

サムソンは力はあったものの、その人格も信仰も幼稚でした。彼は自分が愛した女性デリラの望みどおり、力の源を教えてくださいました。ペリシテ人は彼を捕らえ、残酷にも彼の目をえぐり出し奴隷としてしまいました。

信仰を異にする結婚、隣人への不遜な行為、自分勝手な振る舞いなどなど、サムソンはそれらの結末として、自分に不幸を招いたようなものです。しかも自分で頼みにしていたその力でさえ、実際には神様から与えられていたものであって、神様が去ってしまえば、その筋骨隆々とした肉体も弱々しいものでしかなかったのです。

私たちは何か苦しみに遭ったときには、まず主の前に「自分のこれまではどうであったか」と省みるチャンスが与えられたと考えたら良いでしょう。さらに成長できる機会です。

サムソンはどん底に落とされたようでしたが、主の約束はまだ生きており、そのナヅル人…すなわち主にささげられた主のものとしての希望が厳然として残っていたのです。髪が伸び始めました。それは主憐れみと約束がまだあることを表しています。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



16:23 さて、ペリシテ人の領主たちは、自分たちの神ダゴンに盛大ないけにえをささげて楽しもうと集まり、そして言った。「私たちの神は、私たちの敵サムソンを、私たちの手に渡してください。」

16:24 民はサムソンを見たとき、自分たちの神をほめたたえて言った。「私たちの神は、私たちの敵を、この国を荒らし、私たち大ぜいを殺した者を、私たちの手に渡してください。」

16:25 彼らは、心が陽気になったとき、「サムソンを呼んで来い。私たちのために見せものにしよう」と言って、サムソンを牢から呼び出した。彼は彼らの前で戯れた。彼らがサムソンを柱の間に立たせたとき、

16:26 サムソンは自分の手を堅く握っている若者に言った。「私の手を放して、この宮をささえている柱にさわらせ、それに寄りかからせてくれ。」

16:27 宮は、男や女でいっぱいであった。ペリシテ人の領主たちもみなそこにいた。屋上にも約三千人の男女がいて、サムソンが演技をするのを見ていた。

16:28 サムソンは主に呼ばわって言った。「神、主よ。どうぞ、私を御心に留めてください。ああ、神よ。どうぞ、この一時でも、私を強めてください。私の二つの目のために、もう一度ペリシテ人に復讐したいのです。」

16:29 そして、サムソンは、宮をささえている二本の中柱を一本は右の手に、一本は左の手にかかえ、それに寄りかかった。

16:30 そしてサムソンは、「ペリシテ人といっしょに死のう」と言って、力をこめて、

それを引いた。すると、宮は、その中にいた領主たちと民全体との上に落ちた。こうしてサムソンが死ぬときに殺した者は、彼が生きている間に殺した者より多かった。
16:31 そこで、彼の身内の者や父の家族の者たちがみな下って来て、彼を引き取り、ツォルアとエシュタオルとの間にある父マノアの墓に彼を運んで行って葬った。サムソンは二十年間、イスラエルをさばいた。

サムソンが奴隷になってから相当な月日が過ぎ、髪が伸びて、(その髪は主への献身を表すものであったので)彼に主からの力が戻りました。ペリシテ人たちはダゴンの祭りに彼を見せものにしましたが、サムソンはここで初めて主に祈り、主の力を頼んで神殿を破壊し、ペリシテ人を大勢殺しました。

ペリシテ人はイスラエルにとって最大の敵であり多大な被害を与えるものであり、また戦わなければならないものでした。それはイスラエル人の信仰と深く関係のある問題で、神への信頼や異教への決別、苦難にどう対処するかといった問題です。

この士師記で分かることは、これら敵や苦難に対して、ただ力があるから能力があるからということで戦うのではないということです。力も起源は神にあるのですから、その神に従って力を発揮しなければ、結局は苦難に負けてしまいます。イスラエルなど共同体のためになることなど不可能であるということです。

サムソンの生涯は大きな働きをしたとはいえ、人間の愚かさや不完全さ思い起こさせます。しかし、最後の最後にでも主により頼み謙遜になって祈るなら、その人に与えられた人生の本当の働きを、この世に残すことができるのです。

拙い者でも主は見捨てずに用いてくださることを感謝しつつ、しかしサムソンよりは成熟しきよめられた者となって、破壊で用いられるよりも建

て上げに用いられる者となりましょう。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？



17:1 エフライムの山地の出で、その名をミカという人がいた。

17:2 彼は母に言った。「あなたが、銀千百枚を盗まれたとき、のろって言われたことが、私の耳に入りました。実は、私がその銀を持っていきます。私がそれを盗んだのです。」すると、母は言った。「主が私の息子を祝福されますように。」

17:3 彼が母にその銀千百枚を返したとき、母は言った。「私の手でその銀を聖別して主にささげ、わが子のために、それで彫像と鑄像を造りましょう。今は、それをあなたに返します。」

17:4 しかし彼は母にその銀を返した。そこで母は銀二百枚を取って、それを銀細工人に与えた。すると、彼はそれで彫像と鑄像を造った。それがミカの家にあった。

17:5 このミカという人は神の宮を持っていた。それで彼はエポデとエラフムを作り、その息子のひとり任命して、自分の祭司としていた。

17:6 そのころ、イスラエルには王がなく、めいめいが自分の目に正しいと見えることを行っていた。

17:7 ユダのベツレヘムの出の、ユダの氏族に属するひとりの若者がいた。彼はレビ人で、そこに滞在していた。

17:8 その人がユダのベツレヘムの町を出て、滞在する所を見つけに、旅を続けてエフライムの山地のミカの家まで来たとき、

17:9 ミカは彼に言った。「あなたはどこから来たのですか。」彼は答えた。「私はユダのベツレヘムから来たレビ人です。私は滞在す

る所を見つけようとして、歩いているのです。」

17:10 そこでミカは言った。「私といっしょに住んで、私のために父となり、また祭司となってください。あなたに毎年、銀十枚と、衣服ひとそろいと、あなたの生活費をあげます。」それで、このレビ人は同意した。

17:11 このレビ人は心を決めてその人といっしょに住むことにした。この若者は彼の息子のひとりのようになった。

17:12 ミカがこのレビ人を任命したので、この若者は彼の祭司となり、ミカの家に行った。

17:13 そこで、ミカは言った。「私は主が私をしあわせにしてくださることをいま知った。レビ人を私の祭司に得たから。」

ここのミカは預言者のミカとは別人です。この士師記のミカに関する記述は、この時代がいかにかに神様から離れ、信仰的に墮落していたか、そして倫理的にも墮落していたかを表しています。

ミカは盗みをしたが、その母はそれをとがめることもせずに、むしろ奨励するかのよう態度を取りました。さらに母は銀で偶像を作ってしまった、ミカは神の秩序に反して息子を祭司として自己流聖所を始めてしまいました。また通りかかったレビ人も生活のために、ミカの聖所で働くことにしてしまいました。

この登場人物はみな神様の力や祝福というものを求めてはいるようです。しかしそれらが全く自分勝手な動機であり、またやり方なのです。

母は盗んだ者をのろい、ミカはそれで恐ろしくなったので罪を申し出ました。しかしそこには神の前での悔い改めがありません。母も息子の罪ですからともに悔い改めるべきだったのですが、お金が出てくればそれで良いとばかりに、悔い改めるどころか、こともあろうに偶像を作ってしまった

ます。

ミカもまた神の祝福を求めてはいましたが、家族で勝手なやり方を始め、自己流なやり方で礼拝し、主のみこころを求めてはいませんでした。そしてやがて彼はその偶像も、自分の祝福の源と思いつこんでいた祭司も奪われることになるのです。

祝福を求めて祈りはするが、主のみこころに従ってはいない…。まさにそれはクリスチャンが自分を省みるべき姿です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



18:1 そのころ、イスラエルには王がなかった。そのころ、ダン人の部族は、自分たちの住む相続地を求めていた。イスラエルの諸部族の中であって、相続地はその時まで彼らに割り当てられていなかったからである。

2 そので、ダン族は、彼らの諸氏族全体のうちから五人の者、ツォルアとエシュタオルからの勇士たちを派遣して、土地を偵察し、調べることにした。それで、彼らに言った。「行って、あの土地を調べなさい。」彼らはエフライムの山地のミカの家に行って、そこで一夜を明かした。

18:3 彼らはミカの家のそばに来、あのレビ人の若者の声に気づいた。そこで、そこに立ち寄り、彼に言った。「だれがあなたをここに連れて来たのですか。ここで何をしていますのですか。ここに何の用事があるのですか。」

18:4 その若者は彼らに言った。「ミカが、かくかくのことを私にしてくれて、私を雇い、私は彼の祭司になったのです。」

18:5 彼らはその若者に言った。「どうぞ、神に伺ってください。私たちのしているこの旅が、成功するかどうかを知りたいのです。」

18:6 その祭司は彼らに言った。「安心して行きなさい。あなたがたのしている旅は、主が認めておられます。」

18:7 五人の者は進んで行って、ライシュに着き、その住民を見ると、彼らは安らかに住んでおり、シドン人のならわしに従って、平穏で安心しきっていた。この地には足りないものは何もなく、押さえつける者もなかった。彼らはシドン人から遠く離れており、そ

のうえ、だれとも交渉がなかった。

18:8 五人の者がツォルアとエシュタオルの身内の者たちのところに帰って来たとき、身内の者たちは彼らに、どうだったかと尋ねた。

18:9 そこで、彼らは言った。「さあ、彼らのところへ攻め上ろう。私たちはその土地を見たが、実に、すばらしい。あなたがたはためらっている。ぐずぐずせずに進んで行って、あの地を占領しよう。」

18:10 あなたがたが行くときは、安心してきっている民のところに行けるのだ。しかもその地は広々としている。神はそれをあなたがたの手に渡しておられる。その場所には、地にあるもので足りないものは何もない。」

18:11 そこで、ダン人の氏族の者六百人は武器を身に着けて、そこ、ツォルアとエシュタオルから旅立ち、

18:12 上って行って、ユダの地キルヤテ・エアリムに宿営した。それで、その所はマハネ・ダンと呼ばれた。今日もそうである。それはキルヤテ・エアリムの西にある。

18:13 彼らはさらにそこからエフライムの山地へと進み、ミカの家に着いた。

ダン部族は相続地を得るために、ライシュの地を攻め取ろうと、偵察を遣わしました。彼らはミカの家で彼の雇われ祭司と会い、成功を占ってもらい、その答えに満足しました。ダン部族は成功を信じて出陣し、ミカの家まで来ました。

ヨシュア記を見ますと、ダン部族が攻め取るべきところはペリシテ人の地でした。しかし彼らは主が与えてくださるという信仰の勇気が持たなくて、自分勝手な成功を得ようと、ライシュを選んだのです。

そのような信仰の状態ですから、ミカの家で偶像とともに礼拝する祭司を見ても何の違和感もなく、彼に成功の願いを立てたのです。このようにダン部族は目先の安泰のために、あるべき主への従いをないがしろにして、歩んでしまいました。後に黙示録7章にある祝福されたイスラエル12部族の中にダン部族の名前はありません。

このことを反面教師とすることができます。私たちは主のみこころを行うことに勇気を持ちましょう。たとえ目先の利益を失ったとしても、従う者に大いなる祝福を用意しておられる主を信じましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

